

## 総合心療センター 看護

近森病院副看護部長 武田直子

### 看護部体制

近森病院副看護部長が心療センター看護全般を担当している。

外来；看護師長 1 名、病棟（1 単位 2 フロア）；看護師長 2 名、看護主任 2 名の看護管理体制を継続した。11 月より、看護師長 1 名の退職にて、2 つのフロア（開放病棟、閉鎖病棟）を 1 名の師長で統括している。

外来と病棟、病棟間の看護連携を強め、情報共有だけでなく、必要に応じて部署間でスタッフが勤務（リリーフ）できる体制をとっている。

デイケア（2 単位に 1 名ずつ）に看護師を配置し、訪問看護ステーションラポールちかもりの看護との連携も強めて、在宅生活への継続看護を実施している。すべての部署で地域連携をすすめる、精神科に対応した地域包括ケアシステムの構築に努めている。

各部署、日常の看護の振り返りの機会をもったり、多職種とのカンファレンス開催を担い、患者を中心に、思いやりの心をもって看護するように努めている。

### 精神障害者の地域移行・定着を推進し、地域生活を支援する

各部署目標（看護）として早期に在宅復帰（地域移行）・定着をめざし、退院に向けた看護計画を共有するためのプラン表作成を推進した。そのほか、隔離拘束期間、時間を短縮し行動制限を最小化すること、服薬の自己管理を促進することなどの数値を可視化して取り組んだ。

外来看護では、医師をはじめ、多職種と連携して、適切なベッドコントロールをおこない、急性期率、患家退院率（在宅復帰）を高め、急性期治療病棟としての役割を果たしている。

### 急性期病院の精神科の機能を強化し、役割を果たす

リエゾンチーム活動では、精神科認定看護師、外来看護師が精神科医、公認心理師（臨床心理士）、作業療法士、PSW(精神保健福祉士)とカンファレンスを実施しながら介入にあたった。急性期（DPC）病院において、早期退院を妨げないように患者、家族、スタッフを支援し、タイムリーな介入に心がけた。

高知市の精神科救急医療事業（土日色日の輪番体制）を担い、師長、主任が当番を担当した。

### 教育活動に関して 看護学校その他非常勤講師（近森病院看護部参照）

看護管理者とともにリソースナース、リーダー看護師も教育活動に積極的に関わった。

感染症の影響から、OJT 教育を強化して、病院の対応を遵守し、教育活動を展開した。看護学生実習は 1 年を通して、5 学校（7 過程）を、管理者、実習指導者が協力して受け入れた。しかし、中止を余儀なくされたり、実習期間を縮小するなど、患者の安全を最優先している。2 つの看護学校の授業は実習指導者が担当している。

精神科研修会は、感染症の推移をみながら実施した。

1 月 9 月・10 月 11 月「事例検討会」（県立大講師、センター長 2、久保課長） 2 月「DBT（弁証法的行動療法）、TIC（トラウマインフォームドケア）」（遊佐先生） 8 月「MSE（メンタルステイタスイグザミネーション）」（県大講師） 全員参加の研修会（倫理、精神保健福祉法、行動制限最小化、災害対策）（医療安全、感染対策は近森病院委員会主催）